

「この町における国分寺キリスト教会の宣教・開拓45周年記念を迎えて」

早くも6月を迎えています。四国は例年よりも1週間ほど早く梅雨入りとなったようです。先日は台風もありました。これから雨の多くなる時期であるとともに、さまざまな農作物にとって必要な雨となります。皆様の日々の生活やご健康が支えられますようにお祈りいたします。



5月のこととなりますが、タイトルに書かれていますように、国分寺町への宣教・開拓が開始されてから2023年の5月でちょうど45年を迎えました。「宣教」とか「開拓」というのは頻りに聞くことばではないかもしれませんが、国分寺キリスト教会がこの町で開始されて、礼拝や集会を初めとして教会の活動が今に至るまで続いています。45年という長い年月の中で数えきれない多くの思い出などがたくさん詰まっていると思うのです。個人的にはその45年間のうちの10年間を知っているだけで、それ以前のことはこれまで発行された記念誌などから知ることができますし、当時から来られている方々から、しばしば昔のことを直接お聞きする機会もあります。お話をお聞きするたびに、国分寺キリスト教会がここまで来ることができたのも、天地万物を造ってくださり、すべてを支配し、保持し、教会の歩みを愛と主権をもって導いてこられた生けるまことの神様の恵みとあわれみであることを深く実感しています。

実際に記念誌に書かれた証しを読んだり、当時の方々からお話をお聞きますと10年以上も前に、いくつかの理由から国分寺キリスト教会が閉じて、坂出にある教会と合併し、一つとなっていくということがある程度まとまっていたことがあったようです。しかし教会は閉鎖されることなく、集まる人たちが心を一つにして熱心に祈り、教会は今に至るまで継続されてきました。教会は便宜上、建物を指すことがあります。厳密には「神様によって呼び出され、召し出された者たちの集まり」ですから、「人そのもの」「イエス・キリストを信じる者の群れ」を指していることが分かります。

イエス・キリストが「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。」(マタイ16章18節)とおっしゃったように、教会は牧師やある特定の人たちのものではなく、イエス・キリストご自身のものであり、教会のかしらがキリストです。教会を建て上げてくださるのもイエス・キリストです。この直前の箇所を読むと、イエスさまとペテロの会話のやり取りが書かれており、ペテロはイエスさまに向かって「あなたは生ける神の子キリストです。」(マタイ16章16節)と告白しました。この信仰告白の上に、教会は建て上げられています。

信じる者が集まり、祈るところにはイエス・キリストもおられます。同じマタイの福音書18章19-20節でイエスさまは弟子たちに向かって「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」と語ってくださいました。「天におられるわたしの父」とは神様のことを指しています。イエスさまの「お名前」において集まっているところには、実際に目に見えなくても、そこにイエスさまがおられるという約束は今の時代に生きる私たちに対する確かな約束でもあるのです。

国分寺キリスト教会はこの町や周辺の町に対してどのような存在となっていくことができるのか、また地域のすべての必要に応じていくことはできないかもしれませんが、教会には何ができるかということは、教会自身に対する問いかけです。教会の存在そのものを証して、できることを忠実にしていき、地域にお仕えしていきたいというのが教会全体としての願いです。教会は一般社会におけるサークルや仲良しクラブとは少し違います。教会は神様を礼拝する存在であり、イエス・キリストを信じる者たちが共に集い、横のつながりを深める共同体です。もちろんまだ神様のことをよくご存知ではない方々も、もっとイエス・キリストや聖書のことを知りたい方々も来会を歓迎しています。神様の素晴らしい愛と聖書のよき知らせである福音(ふくいん)を一人でも多くの方々に知っていただきたいというのが教会の最大の祈りです。

「自分という存在」の根本的な意義と目的を聖書から見出していただき、イエス・キリストの十字架の愛が自分にとってどのような意味を持っているのか、ということを知っていただきたいと心から願っています。引き続き、神様の恵みと祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。